

(5) こども育成施設

1) 学童保育室

① 概 要

本市には、保護者が就労等により家庭に不在の、主に小学1年生から3年生までの児童を対象に、健全な育成を図ることを目的とする公設の学童保育室が30か所あり、忍頂寺小学校と清溪小学校を除く全ての小学校で開設しています。そのうち17施設は、小学校の校舎棟の余裕教室等を活用しています。

学校の敷地内に独立して建てられている14施設は全てプレハブ平屋建で比較的新しいものが多くなっていますが、築30年を超える施設も2施設あります。また、春日及び福井学童保育室については、入室児童数の増加に対応するため、平成29年度に、新たに2階建ての建物を建築しています。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度は導入していません。

なお、市内には、放課後児童健全育成事業を実施する施設として届出をしている民間の学童保育室が5か所あります。

表 3-2-11 学童保育室の概要

No.	施設名	所在地	複合 区分	運営 形態	延床 面積 (㎡)	主要な建物の情報（H29年末現在）			
						建築年	経過 年数	構造・ 階数	耐震性
学童保育室									
1	茨木学童保育室【余裕教室】	片桐町 8 番40号	複合	直営	194	S33	59	RC・3	○
2	春日学童保育室【プレハブ】	上穂東町 5 番18号	単独	直営	173	H19	10	LS・1	○
3	春日丘学童保育室【プレハブ】	中穂積三丁目 3 番43号	単独	直営	46	H17	12	LS・1	○
	春日丘学童保育室【余裕教室】	中穂積三丁目 3 番43号	複合	直営	111	S40	52	RC・3	○
4	三島学童保育室【余裕教室】	三島町 3 番13号	複合	直営	194	S43	49	RC・3	○
5	中条学童保育室【余裕教室】	新中条町 7 番12号	複合	直営	194	S48	44	RC・3	○
6	玉櫛学童保育室【プレハブ】	水尾三丁目 1 番51号	単独	直営	143	H14	15	LS・1	○
7	安威学童保育室【プレハブ】	安威二丁目21番23号	単独	直営	68	H6	23	LS・1	○
8	玉島学童保育室【プレハブ】	玉島二丁目11番23号	単独	直営	130	S58	34	LS・1	○
9	福井学童保育室【プレハブ】	東福井二丁目 4 番20号	単独	直営	91	S63	29	LS・1	○
10	大池学童保育室【余裕教室】	大池一丁目 5 番 8 号	複合	直営	194	S40	52	RC・3	○
11	豊川学童保育室【余裕教室】	宿久庄五丁目14番 5 号	複合	直営	65	S45	47	RC・2	○
12	中津学童保育室【余裕教室】	中津町10番15号	複合	直営	130	S46	46	RC・4	○
13	東学童保育室【余裕教室】	鮎川二丁目 5 番23号	複合	直営	130	S48	44	RC・3	○
14	水尾学童保育室【プレハブ】	水尾四丁目 7 番16号	単独	直営	145	H10	19	LS・1	○
15	郡山学童保育室【余裕教室】	新郡山二丁目30番18号	複合	直営	130	S51	41	RC・3	○
16	太田学童保育室【余裕教室】	花園一丁目21番26号	複合	直営	130	S58	34	RC・3	○
17	天王学童保育室【プレハブ】	天王二丁目13番57号	単独	直営	275	H15	14	LS・1	○
18	葦原学童保育室【余裕教室】	新和町13番50号	複合	直営	194	S51	41	RC・3	○
19	郡学童保育室【プレハブ】	郡五丁目26番23号	単独	直営	105	H11	18	LS・1	○
20	庄栄学童保育室【余裕教室】	庄二丁目26番 5 号	複合	直営	130	S50	42	RC・3	○
21	沢池学童保育室【プレハブ】	南春日丘三丁目11番 6 号	単独	直営	130	H18	11	LS・1	○
	沢池学童保育室【余裕教室】	南春日丘三丁目11番 6 号	複合	直営	65	S56	36	RC・3	○
22	畑田学童保育室【プレハブ】	畑田町 3 番31号	単独	直営	117	H17	12	LS・1	○
23	山手台学童保育室【余裕教室】	山手台四丁目 9 番 4 号	複合	直営	130	S56	36	RC・4	○
24	耳原学童保育室【余裕教室】	耳原二丁目20番55号	複合	直営	194	S54	38	RC・4	○
25	穂積学童保育室【余裕教室】	下穂積二丁目 6 番62号	複合	直営	194	S56	36	RC・3	○
26	白川学童保育室【余裕教室】	白川一丁目 4 番 1 号	複合	直営	130	S56	36	RC・3	○
27	東奈良学童保育室【プレハブ】	東奈良二丁目 5 番36号	単独	直営	130	H13	16	LS・1	○
28	西学童保育室【プレハブ】	北春日丘三丁目12番23号	単独	直営	113	S59	33	LS・1	○
29	西河原学童保育室【余裕教室】	西河原北町 7 番33号	複合	直営	65	S59	33	RC・3	○
30	彩都西学童保育室【プレハブ】	彩都あさぎ五丁目 8 番 1 号	単独	直営	184	H19	10	LS・1	○

② 施設位置図

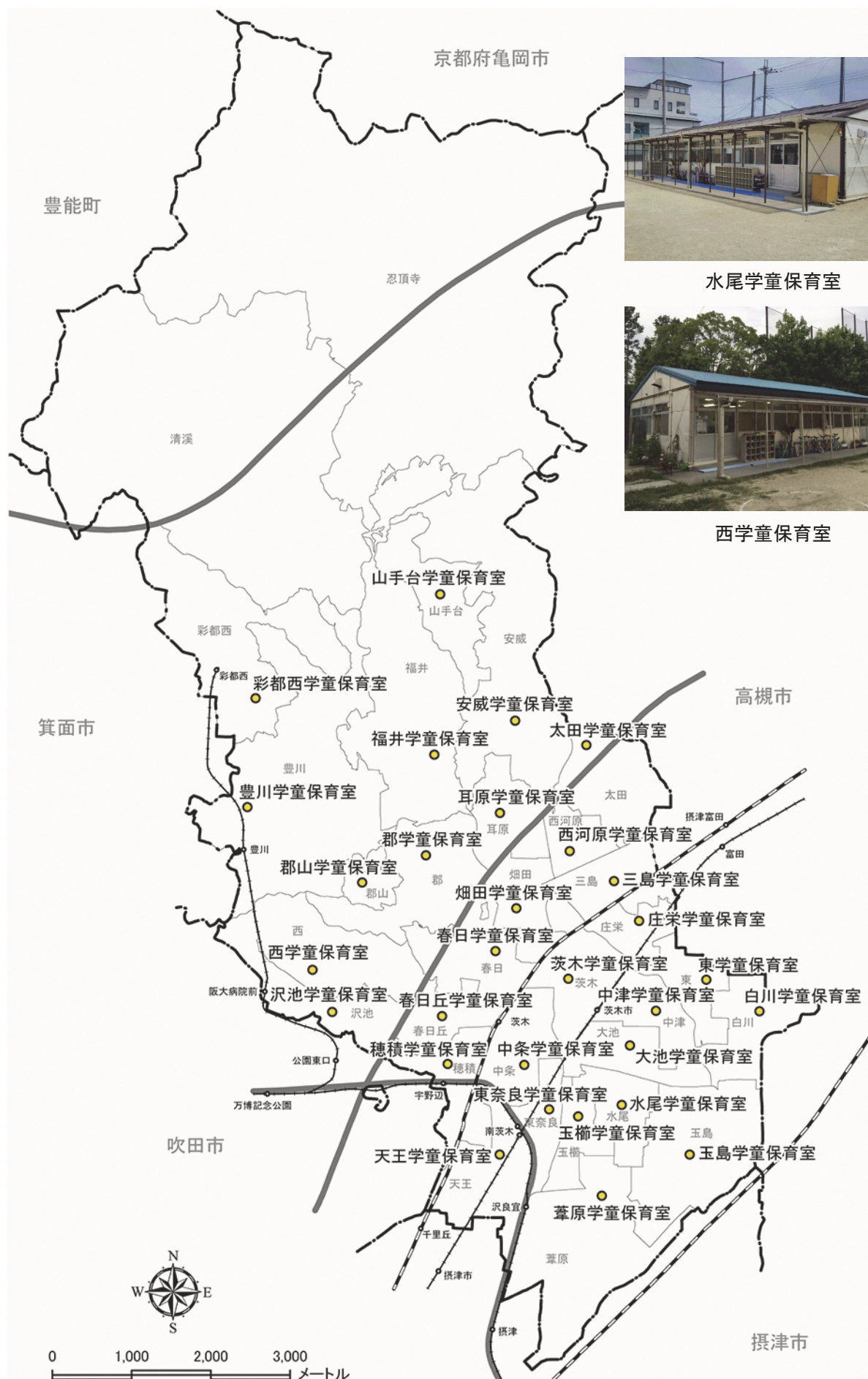


図 3-2-68 対象施設位置図 (学童保育室)

③ 利用の状況

学童保育室を利用する児童数は増加傾向にあり、特に、平成 26 年度以降は毎年約 190 人ずつ増加しており、平成 28 年度の利用児童数は 2,078 人となっています。また、それにあわせて指導員の数も増員しています。

施設別にみると、平成 28 年 5 月 1 日現在で、利用児童数が 100 人を超える施設が 5 施設となっています。

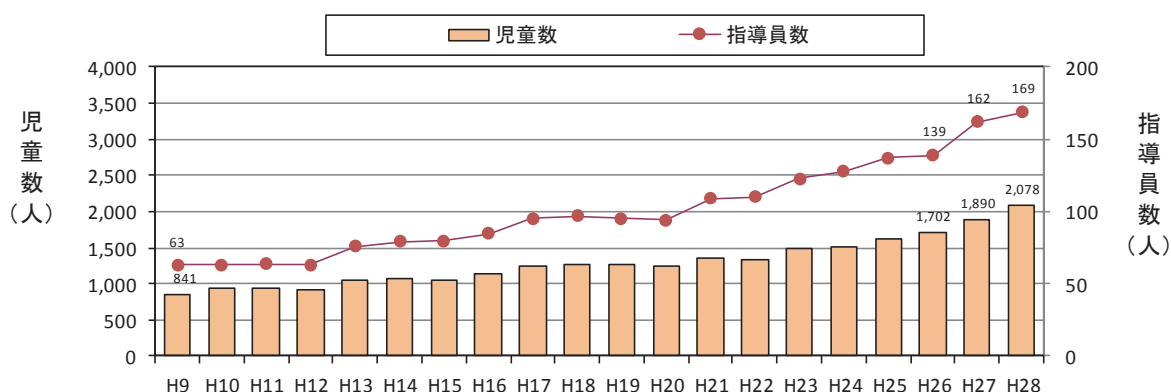


図 3-2-69 利用児童数・指導員数の推移（各年 5 月 1 日現在）

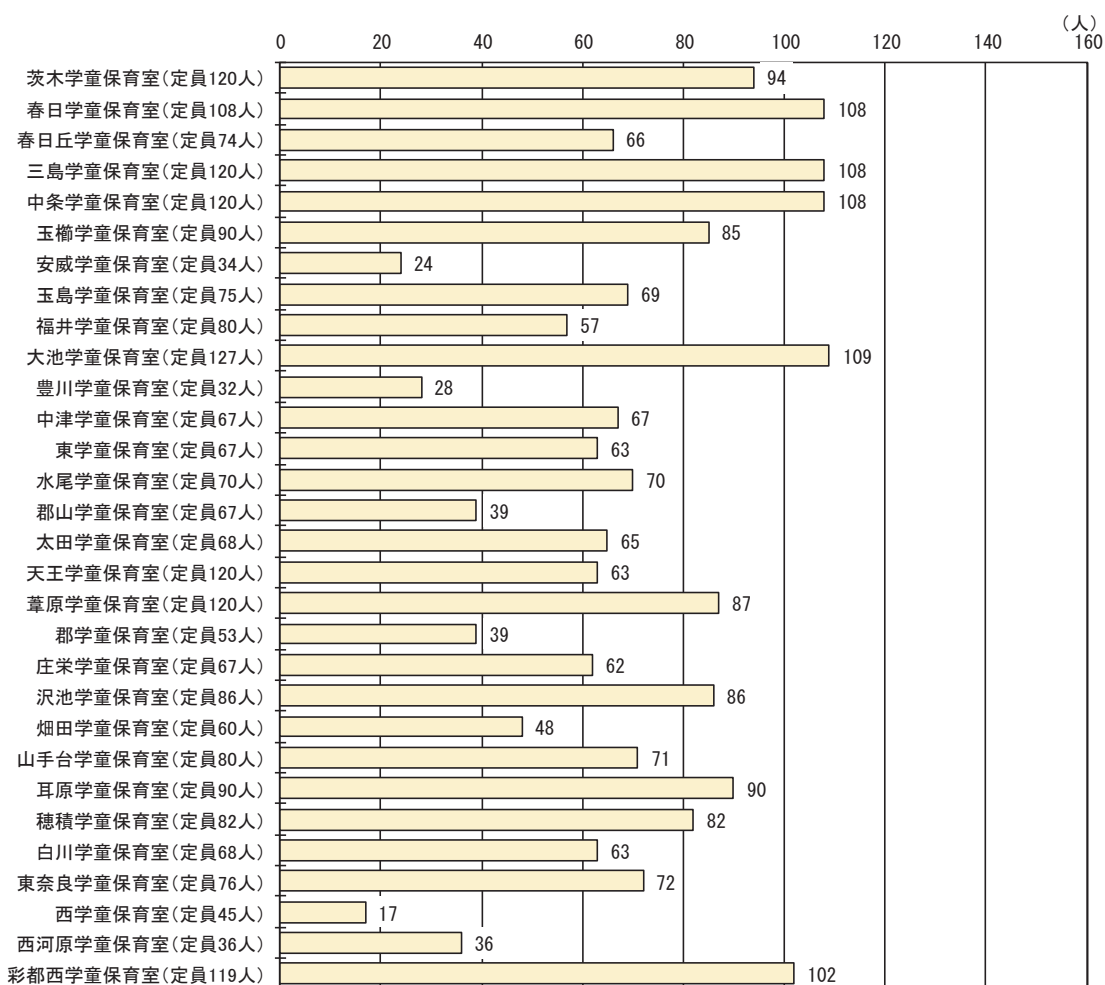


図 3-2-70 利用児童数（H28 年 5 月 1 日現在）

学童保育室の利用にあたっては、事前に申込が必要であり、年度途中でも申し込みは可能ですが、空きがない場合には待機扱いとなっています。

平成 28 年 5 月 1 日現在の受入可能人数に対する利用児童数の割合（受入可能人数充足率）を見ると、7 施設で空きがない状態です。

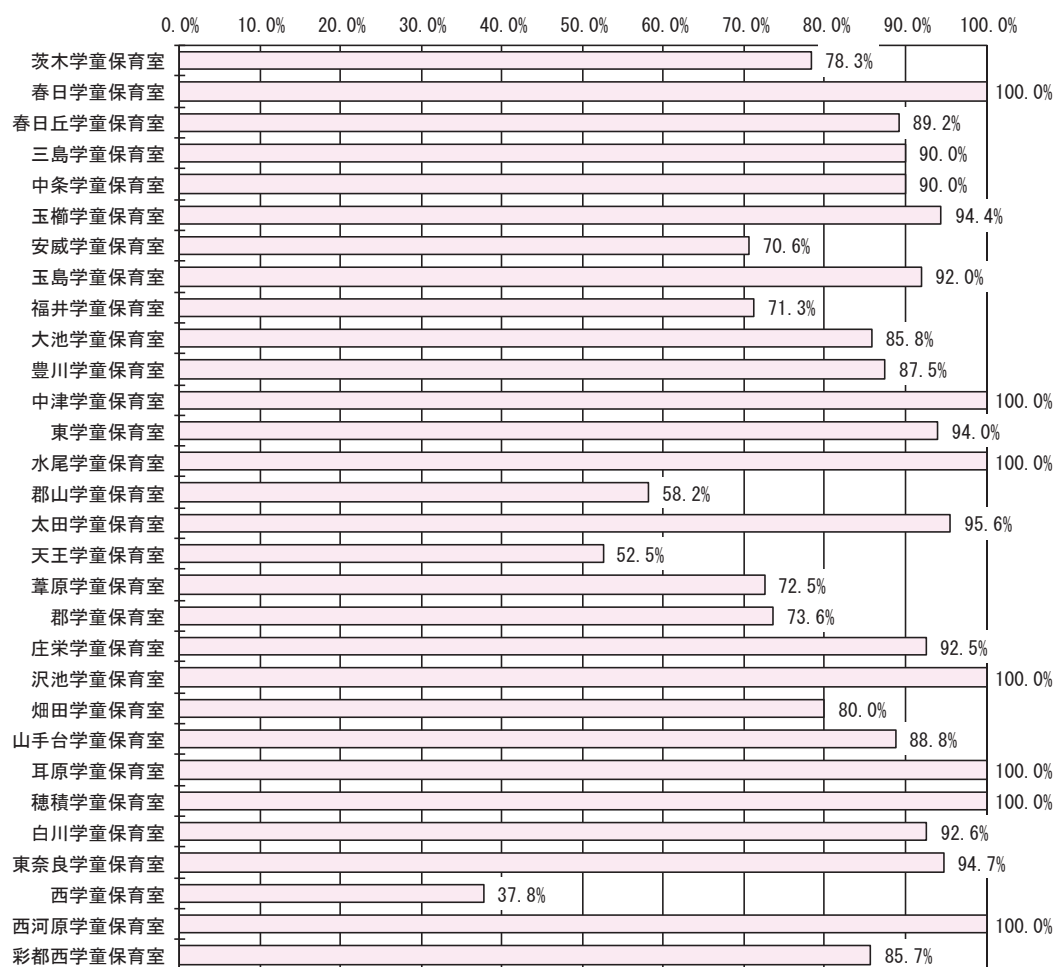


図 3-2-71 施設の利用状況（受入可能人数充足率）（H28 年 5 月 1 日現在）

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、中条学童保育室で約 4,700 万円、彩都西学童保育室で約 4,200 万円などとなっており、指導員の人件費が大部分を占めています。

また、歳入をみると、学童保育室利用料や運営に対する補助金を含めて、歳入が 2,000 万円を超える施設が 5 施設となっています。

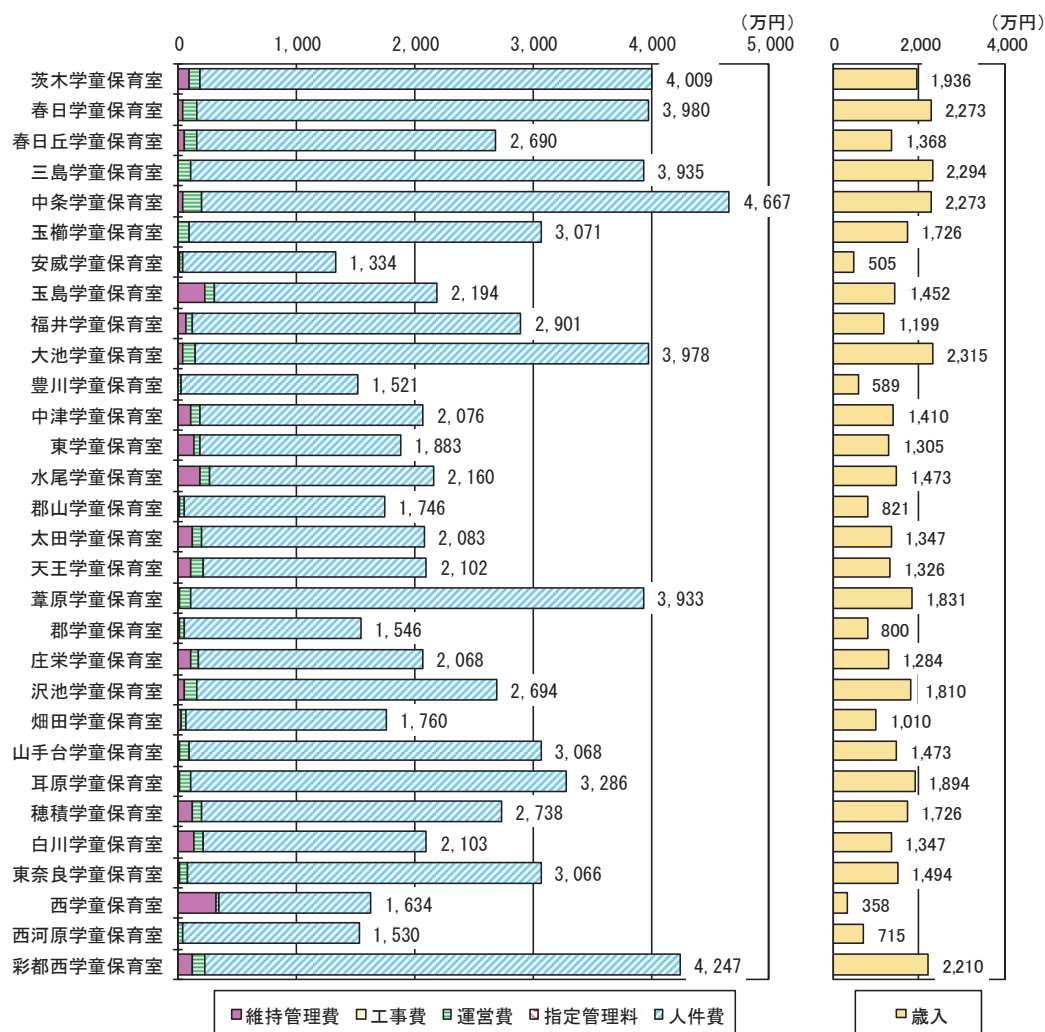


図 3-2-72 施設に関する費用と内訳 (H28 年度)

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、福井学童保育室で約 18 万 8 千円、豊川学童保育室で約 14 万 4 千円となっています。

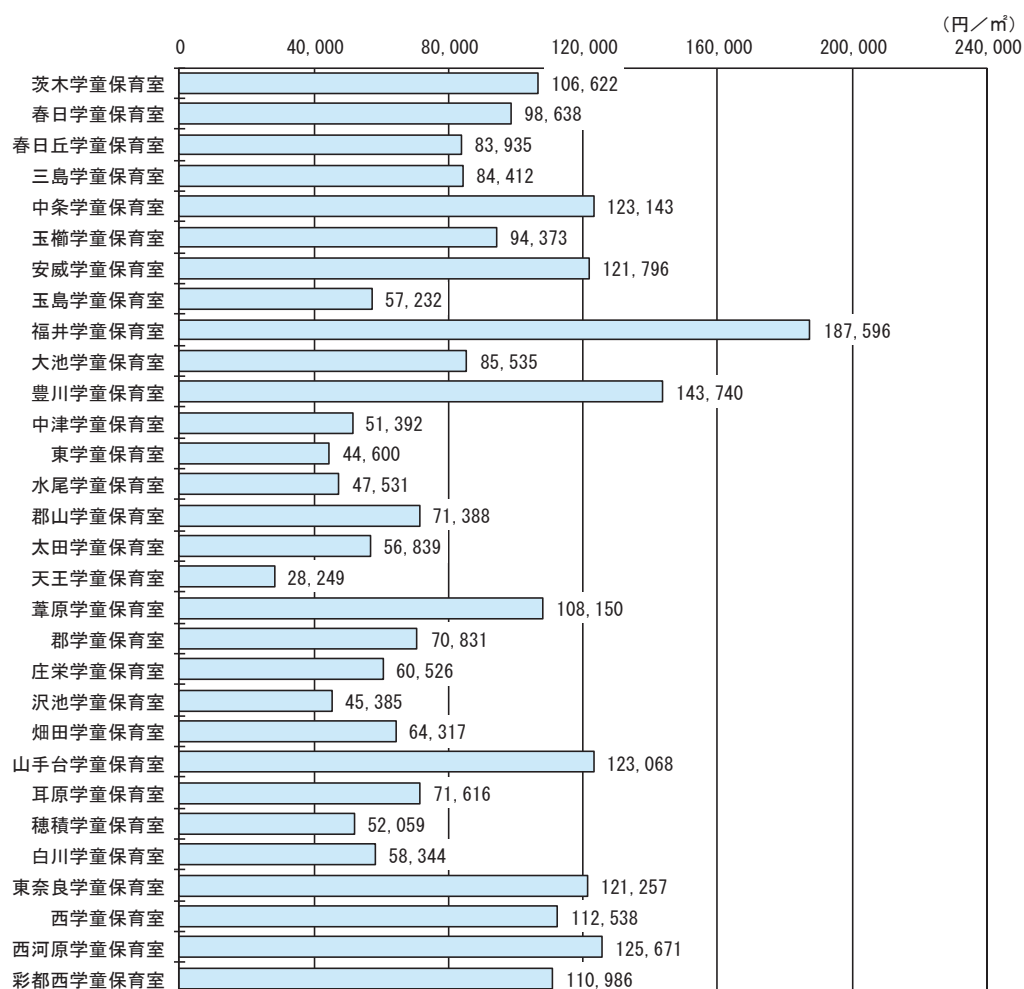


図 3-2-73 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト（H28 年度）

また、利用児童1人あたりで比較すると、利用児童数が17人と最も少ない西学童保育所で約75万円となっています。

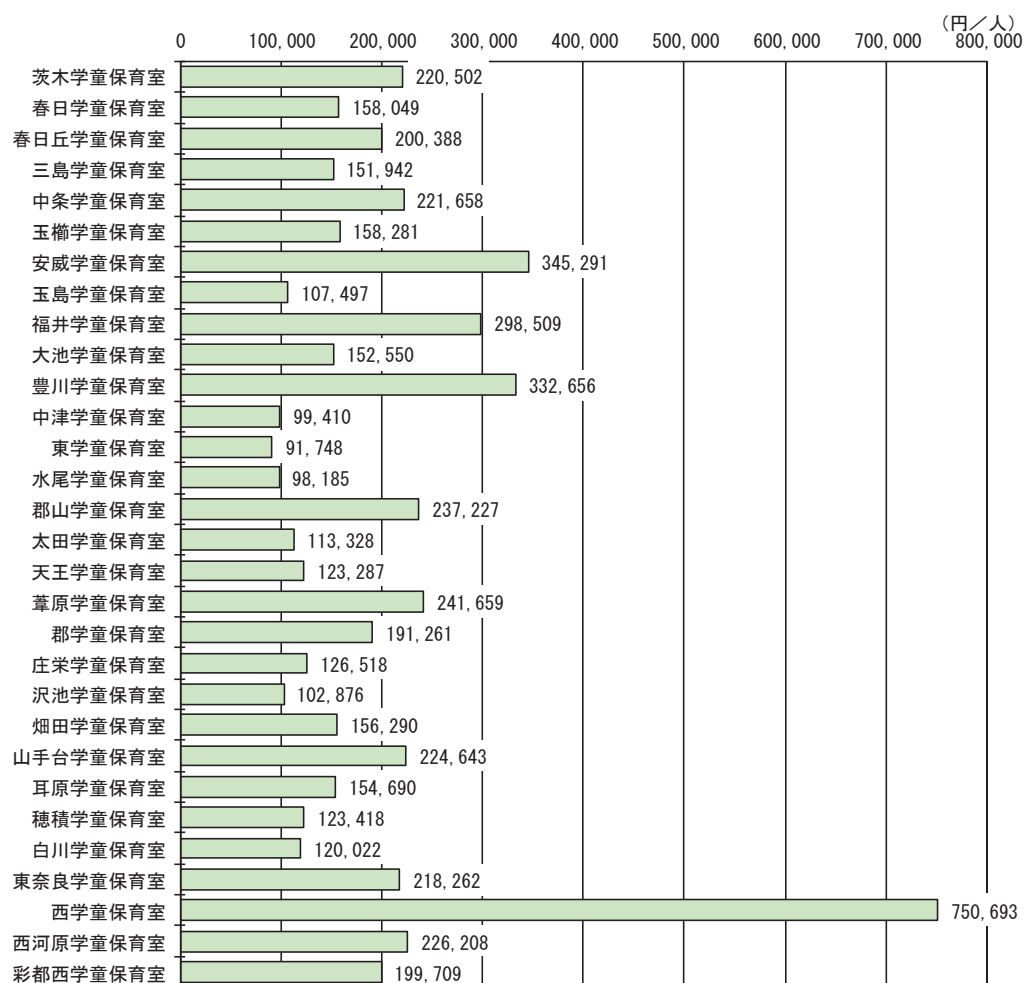


図 3-2-74 利用児童1人あたりの市負担コスト (H28 年度)

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 10m^2 あたりの児童数をみると、福井児童保育室で約6.3人と最も多くなっています。

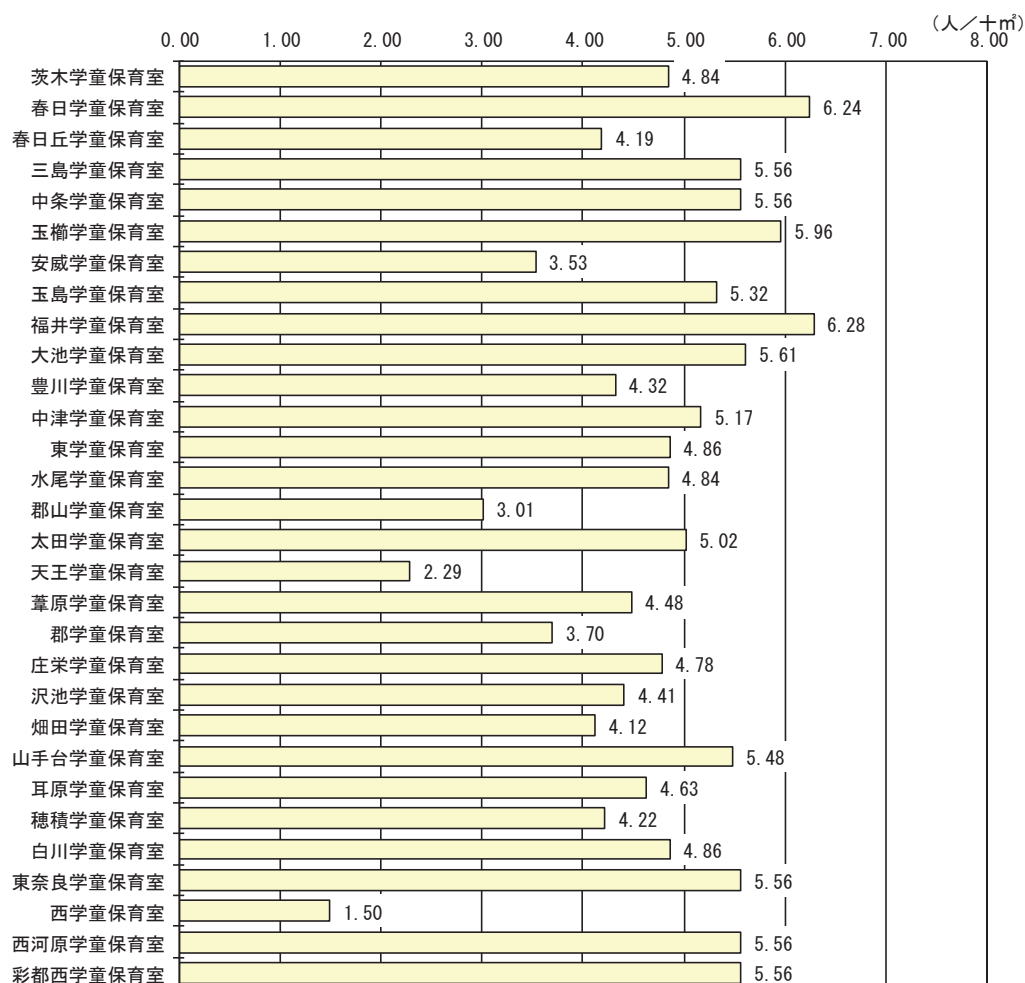


図 3-2-75 延床面積 10m^2 あたりの利用者数 (H28 年 5 月 1 日現在)

⑦ 今後の課題等

- ・市内の子どもの数は減少が続くと見込まれますが、女性の社会進出等を背景に、学童保育室の利用者数は近年大幅に増加しており、今後もしばらくの間、利用の増加が続くことが予想されます。また、現在は主に小学校1～3年生を対象としています。国において、対象を6年生まで拡充する方針が示されています。
- ・利用者が受入可能人数の上限に達している施設も複数あるなど、現在の建物や教室で利用者の増加や対象拡大に対応するには限界があり、余裕教室のさらなる活用のほか、放課後や長期休業中のみの教室の借用、学校敷地外の施設の活用、更新による施設規模の拡大等を検討する必要があります。
- ・築30年以上のプレハブを使用している施設もありますが、プレハブは比較的簡易な建物のため、劣化状況等を踏まえ、適切な時期に更新や校内の余裕教室等への移転を検討する必要があります。
- ・運営面では、民間の学童保育室との連携の強化など、民間のノウハウの活用の可能性についても検討する必要があります。

2) 保育施設

① 概 要

本市では、就労などのため家庭で保育ができない保護者に代わって保育を行うための保育施設が7か所（保育所5か所、待機児童保育室2か所）あります。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度等は導入していません。また、いずれの施設も築30年以上が経過しており、老朽化が進行しています。

なお、市内には、それぞれ特色のある運営をしている私立保育園、認定こども園等が59か所あります。

表 3-2-12 保育施設の概要

No.	施設名	所在地	複合 区分	運営 形態	延床 面積 (㎡)	主要な建物の情報（H29年末現在）			
						建築年	経過 年数	構造・ 階数	耐震性
保育所									
1	春日保育所	西田中町 1 番 6 号	単独	直営	888	S62	30	RC・2	○
2	中央保育所	宮元町 2 番34号	単独	直営	550	S46	46	RC・2	○
3	沢良宜保育所	沢良宜浜三丁目13番27号	単独	直営	724	S47	45	RC・1	○
4	総持寺保育所	総持寺二丁目 2 番15号	単独	直営	566	S48	44	RC・1	○
5	郡保育所	郡五丁目29番 4 号	単独	直営	775	S53	39	RC・2	○
待機児童保育室									
1	待機児童保育室あゆみ	学園町 2 番 1 号	単独	直営	2,257	S51	41	S・3	○
2	待機児童保育室みらい	西河原二丁目16番17号	単独	直営	465	S48	44	RC・2	○



沢良宜保育所



待機児童保育室あゆみ

② 施設位置図



図 3-2-76 対象施設位置図（保育施設）

③ 利用の状況

市立保育所と私立保育園等を合わせた入所児童数は一貫して増加を続けており、平成9年度には2,472人でしたが、平成28年度には5,306人と2倍以上になっています。

平成14年度では市立保育所が約6割を占めていましたが、平成19年度から、順次、13の市立保育所の民営化を行ったこと及び、私立保育施設の新設や定員増を行ったことから、平成28年度では私立保育園等が約9割を占めています。

市立保育所の施設別の入所児童数を見ると、郡保育所が最も多く、137人となっています。

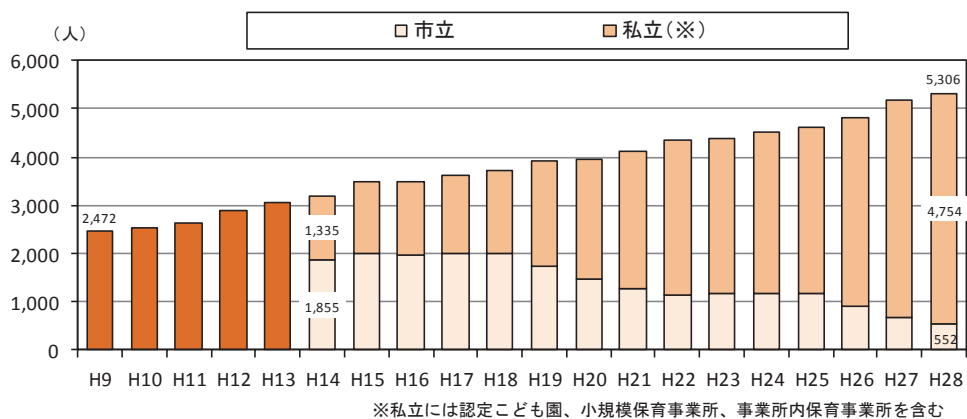


図 3-2-77 保育所入所児童数の推移（各年4月1日現在）

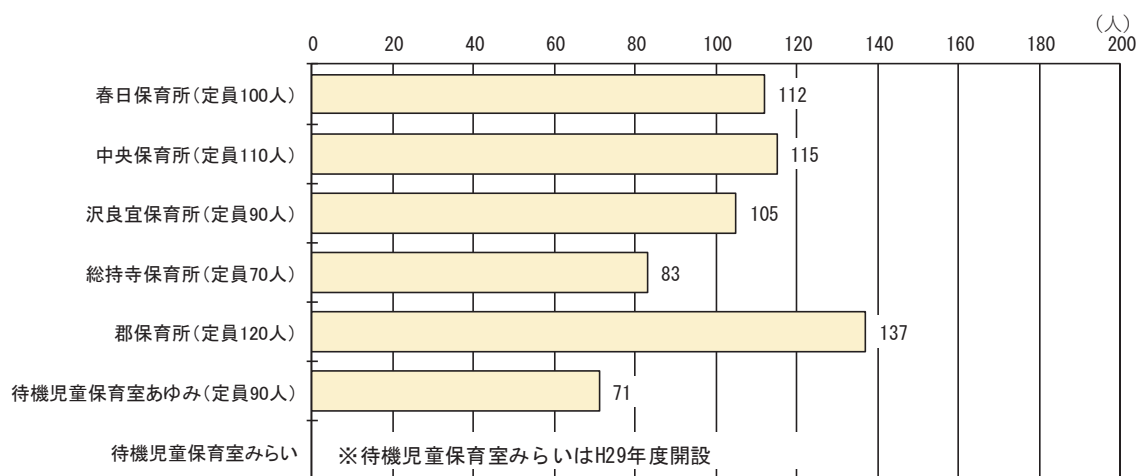


図 3-2-78 入所児童数
（保育所は H28 年 4 月 1 日現在、待機児童保育室は H28 年 10 月 1 日現在）

保育所には定員がありますが、平成 28 年度の定員充足率（定員に対する入所児童数の割合）をみると、近年の高い保育需要に対応するため弾力的な運用を行っており、5つの保育所全てで定員を超えた入所を行っています。

待機児童保育室は、保育所への入所を待機している児童の一次的な保育施設という位置付けであり、定員の約 79%の児童が入室しています。

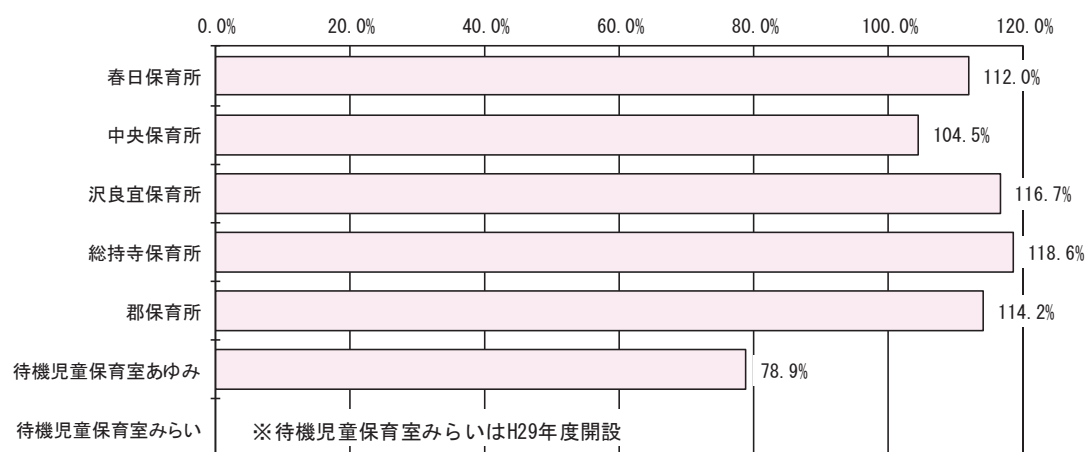


図 3-2-79 定員充足率
（保育所は H28 年 4 月 1 日現在、待機児童保育室は H28 年 10 月 1 日現在）

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、入所児童数の最も多い郡保育所で約 2 億 1 千万円、大規模改修工事を実施した沢良宜保育所で約 2 億円となっています。平成 29 年度に開設された待機児童保育室みらいを除いて、いずれの施設も人件費が大部分を占めています。

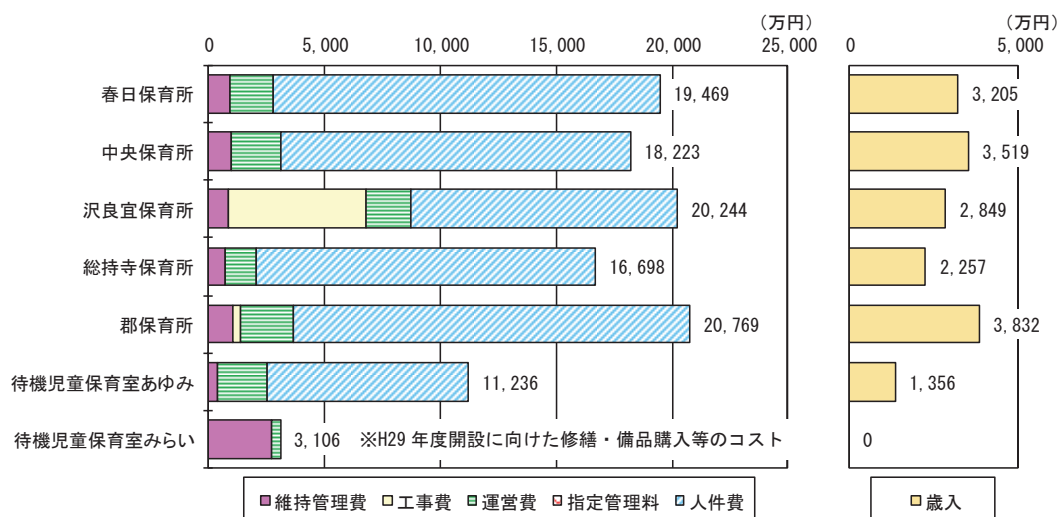


図 3-2-80 施設に関する費用と内訳（H28 年度）

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、中央保育所で約 26 万 7 千円、総持寺保育所で約 25 万 5 千円、郡保育所で約 21 万 4 千円となっています。

また、入所児童数 1 人あたりで比較すると、総持寺保育所で約 174 万円、春日保育所で約 145 万 2 千円、待機児童保育室あゆみで約 139 万 2 千円となっています。

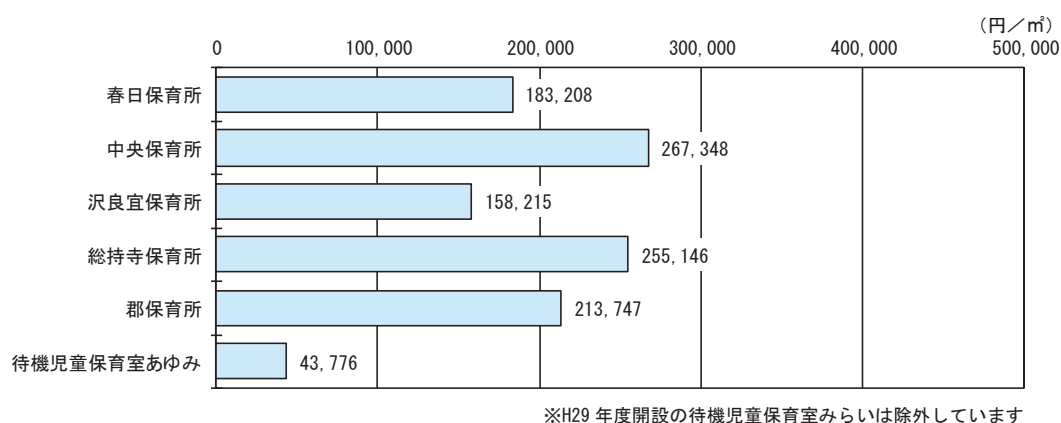


図 3-2-81 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト（H28 年度）

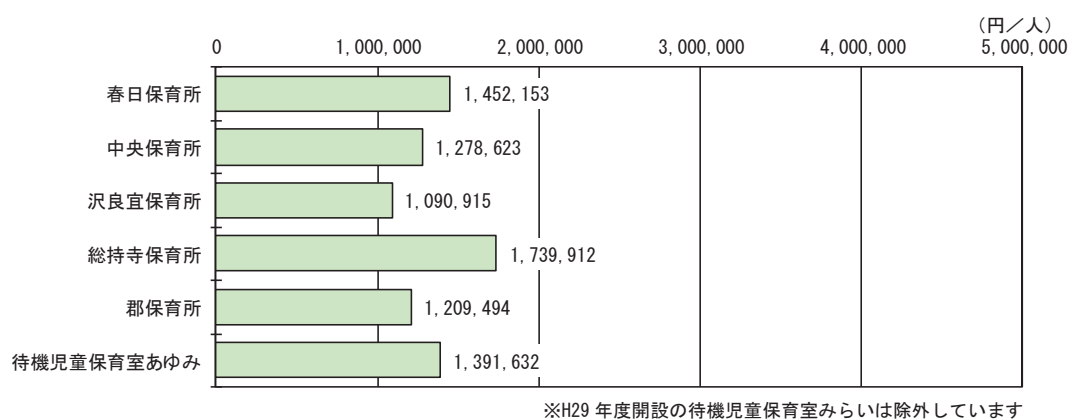


図 3-2-82 入所児童数 1 人あたりの市負担コスト（H28 年度）

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積百㎡あたりの児童数をみると、中央保育所で約 21 人、郡保育所で約 18 人などとなっています。

待機児童保育室あゆみは、3 階建ての旧学園町分室（環境部門の庁舎施設）の 1 階と 2 階の一部分を転用した施設であることから少なくなっています。

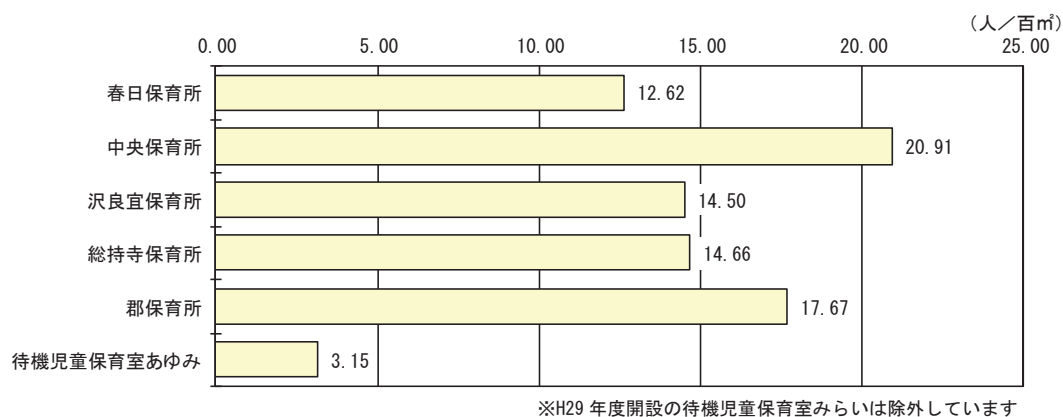


図 3-2-83 延床面積百㎡あたりの入所児童数
(保育所は H28 年 4 月 1 日現在、待機児童保育室は H28 年 10 月 1 日現在)

⑦ 今後の課題等

- ・市内の子どもの数は減少が続くと見込まれますが、女性の社会進出等を背景に、就学前の子どもの保育施設に対するニーズは近年非常に高いものがあり、今後もしばらくの間、利用の増加が続くことが予想されます。
- ・待機児童の解消に集中的に取り組んできたことにより、待機児童数は減少※していますが、今後も市民意識の変化や潜在的なニーズ、将来の児童数の変化等を総合的に考慮した待機児童対策の推進が求められます。

※本市の待機児童数：平成 28 年度：147 人、平成 29 年度：58 人（いずれも 4 月 1 日現在）

- ・これまでも市立保育所の段階的な民営化等により、民間活力を活用した、より効果的・効率的な保育行政を展開し、市民サービスの向上を図ってきましたが、今後も、私立保育園等をはじめ、幼稚園や認定こども園等との役割分担や連携強化を進め、保育サービスの充実に努める必要があります。
- ・市立保育所は、いずれも建築後 30 年以上経過しており、老朽化の状況を踏まえ、長期的な活用を見据えた適切な維持管理が求められます。

3) その他こども育成施設

① 概 要

本市には、その他のこども育成施設が6か所あります。

合同庁舎内にある子育て支援総合センターでは、乳幼児とその保護者が自由に集える「ぽっぽルーム」を開放しているほか、子育て全般に関する情報提供や乳幼児の一時預かりなどを行っています。また、子育てに関する電話相談や面談に応じるほか、児童虐待対応などの専門的な支援も実施しています。なお、平成29年度からはこども健康センターと連携し、子育て世代包括支援センターとして事業を実施しています。

子育て支援総合センターの分館である子育てすこやかセンターでは、指定管理者制度を導入し、児童虐待対応など一部の事業を除き、子育て支援総合センターと同様の事業を行っています。

こども健康センターでは、指定管理者制度を導入し、母子健康手帳の交付のほか、乳幼児の健診や相談等の母子保健事業や予防接種事業を実施しています。また、安心して子育てができるよう妊娠・出産・子育てに関する相談窓口として子育て世代包括支援センターを併設しています。

その他、乳幼児や児童の発達を支援し、また、相談や助言等を行うための施設として、児童発達支援センターあけぼの学園、児童発達支援事業所すくすく教室、児童発達支援事業所ばら親子教室があります。平成30年度からは、すくすく教室とばら親子教室を再編し、初期療育を行う新たな児童発達支援事業をこども健康センターで実施する予定です。

子育て支援総合センター（合同庁舎）や児童発達支援センターあけぼの学園では、平成29年末現在、築40年以上を経過しています。

表 3-2-13 その他こども育成施設の概要

No.	施設名	所在地	複合 区分	運営 形態	延床 面積 (㎡)	主要な建物の情報（H29年末現在）			
						建築年	経過 年数	構造・ 階数	耐震性
子育て支援センター									
1	子育て支援総合センター	東中条町2番13号	複合	直営	956	S48	44	RC・7	○
2	子育てすこやかセンター	沢良宜浜三丁目12番5号	単独	指定管理	284	S49	43	RC・2	○
その他こども育成施設									
1	こども健康センター	春日三丁目13番5号	複合	指定管理	2,011	H3	26	RC・4	○
2	児童発達支援センター あけぼの学園	西穂積町8番11号	単独	直営	1,011	S49	43	RC・1	○
3	児童発達支援事業所 すくすく教室	春日三丁目13番5号	複合	直営	468	H3	26	RC・4	○
4	児童発達支援事業所 ばら親子教室	片桐町4番26号	複合	直営	254	H8	21	RC・4	○



子育てすこやかセンター



こども健康センター

② 施設位置図



図 3-2-84 対象施設位置図（その他こども育成施設）

③ 利用の状況

平成 28 年度の利用状況を見ると、子育て支援総合センターでは、乳幼児を持つ子育て中の保護者の交流の場を提供する集いの広場「ぽっぽルーム」で約 3 万 2 千人の親子の利用があったほか、約 350 件の面接相談を実施するなど、合わせて約 3 万 9 千人の方が利用しています。

児童発達支援センターあけぼの学園では、平成 28 年 4 月 1 日現在で、定員 64 人の約 81%にあたる、52 人が在籍しています。

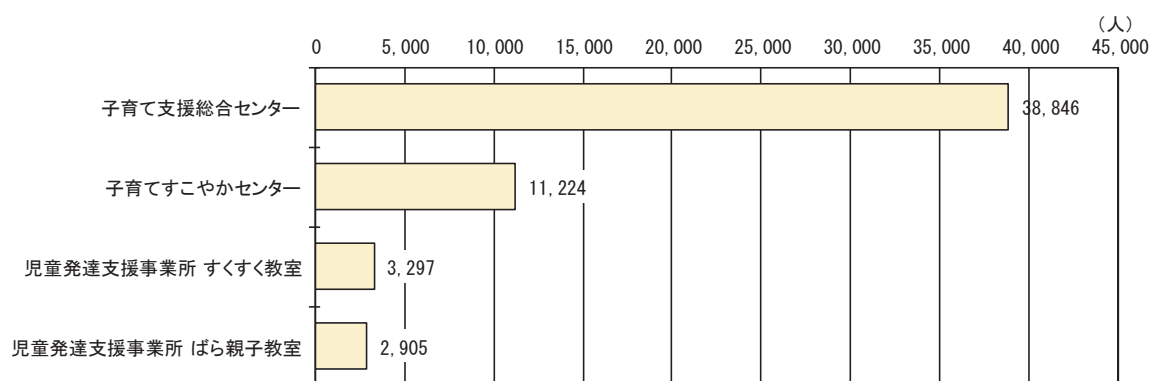


図 3-2-85 施設の利用者数 (H28 年度)

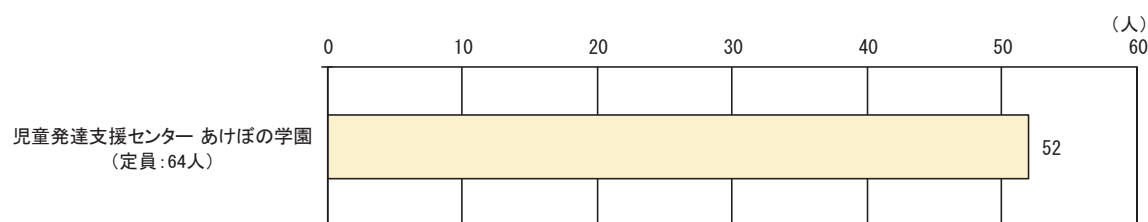


図 3-2-86 在籍児童数 (H28 年 4 月 1 日現在)

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、児童発達支援センターあけぼの学園で約 1 億 8 千万円、子育て支援総合センターで約 1 億 6 千万円となっています。指定管理者制度を導入している子育てすこやかセンターとこども健康センターを除く 4 施設では、人件費が大部分を占めています。

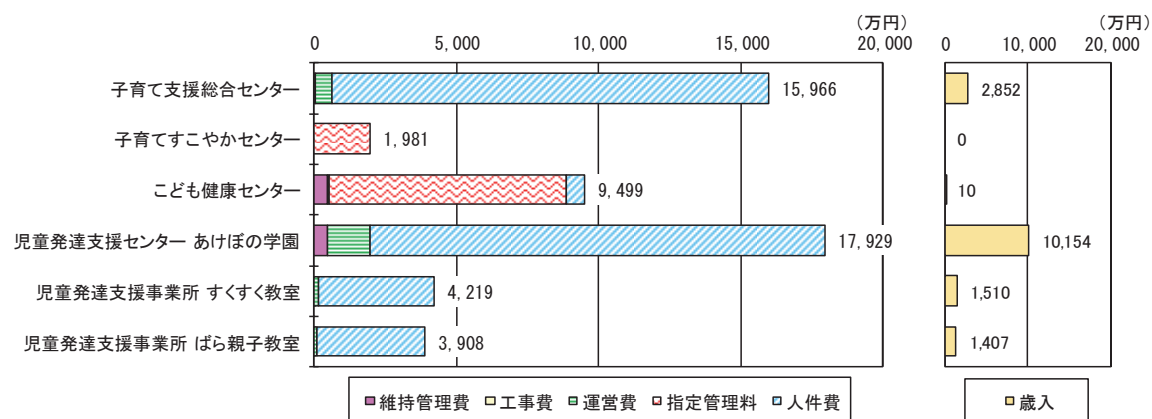


図 3-2-87 施設に関する費用と内訳（H28 年度）

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、子育て支援総合センターで約 13 万 7 千円、児童発達支援事業所ばら親子教室で約 9 万 8 千円となっています。

また、利用者 1 人あたりで比較すると、児童発達支援事業所ばら親子教室で約 9 千円となっており、児童発達支援センターあけぼの学園の在籍児童あたりでみると、約 150 万円となっています。

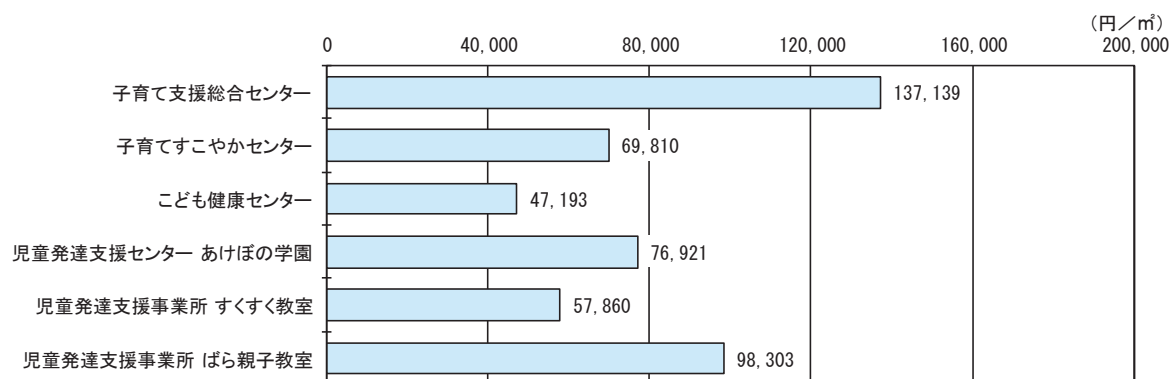


図 3-2-88 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト（H28 年度）

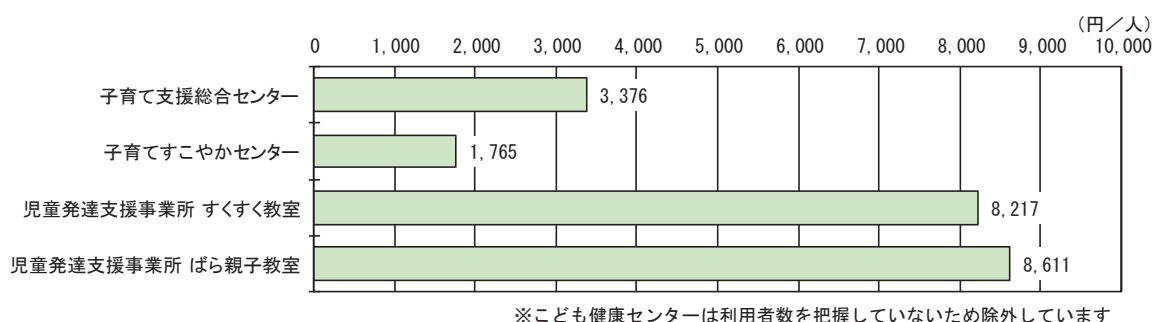


図 3-2-89 利用者 1 人あたりの市負担コスト（H28 年度）

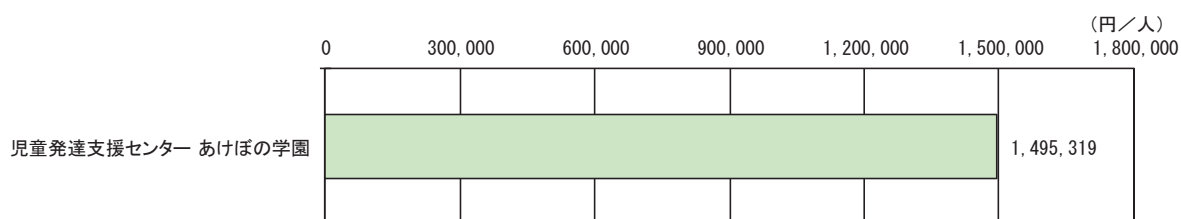


図 3-2-90 在籍児童 1 人あたりの市負担コスト（H28 年度）

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 1 m²あたりの利用者数をみると、子育て支援総合センターで約 41 人、子育てすこやかセンターで約 40 人などとなっています。また、児童発達支援センターあけぼの学園の学園の延床面積百 m²あたりの在籍者数は、約 5 人となっています。

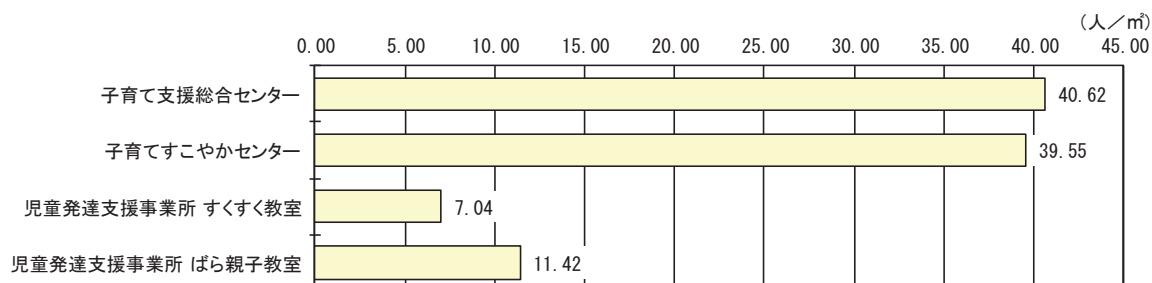


図 3-2-91 延床面積 1 m²あたりの利用者数 (H28 年度)

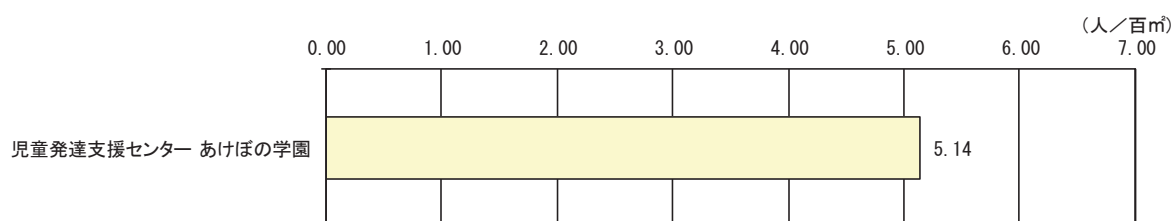


図 3-2-92 延床面積百 m²あたりの在籍者数 (H28 年 4 月 1 日現在)

⑦ 今後の課題等

- ・市内の子どもの数は減少を続けることが見込まれますが、子どもの成長や子育てに関するニーズは多様化しており、今後も、子育てに関する情報提供や相談、支援に対するニーズは増加すると予想されます。
- ・「市民会館跡地エリア活用基本構想」では、市民会館跡地エリアを活用した新施設における導入機能、施設構成のイメージの一つとして、子育てに関する切れ目のない支援を実現する拠点機能（いばらき版ネウボラ）としての方向性を示しており、具体的な内容の検討にあたっては、子育て支援総合センターやこども健康センターからの機能移転や、周辺施設との役割分担等を十分に検討する必要があります。
- ・運営面では、一部の施設で導入している指定管理者制度の効果などを検証するとともに、他の施設においても、定期的に導入の是非等を検討することが求められます。